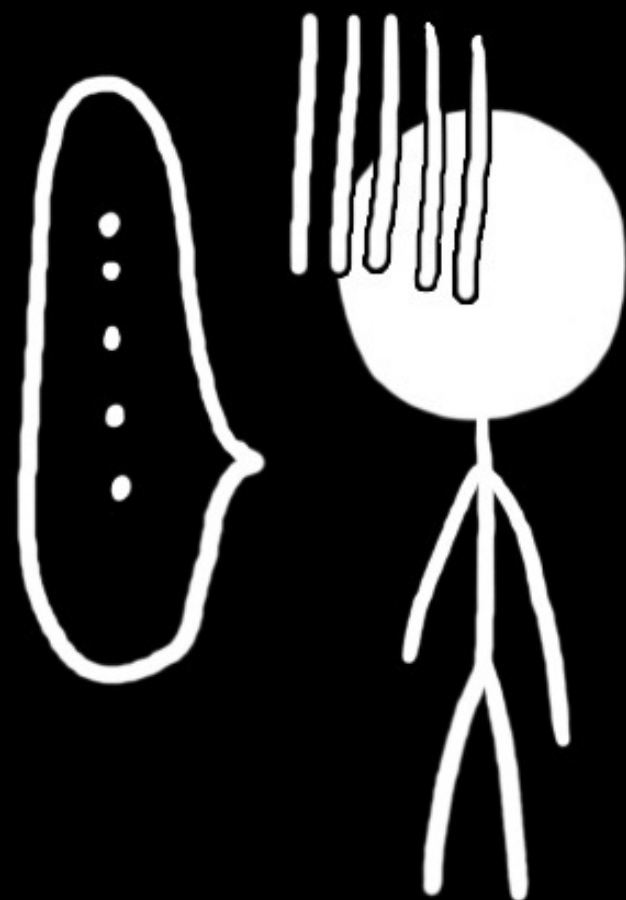


結婚しないという

微妙な生き方



結婚なんてしたくない、という気持ちは、なかなか微妙なものだ。いや、言い直そう。気持ち自体は確たるものだから微妙ではない。気持ちではなくて、そういう状態で生きていくというのが微妙なのだ。特に友人などの結婚式で、結婚はまだなのか、と聞かれたり、何故結婚しないのか、などと聞かれたりした場合、返答に窮する事が多い。先に書いたように確たる信念があるのだから、それなら何を窮するのか、と言われそうだけれど、どんなに自分が確たる信念を抱いていたとしても、それがそのまま周りに通じるわけではないのである。

例をあげてみる。まず、自分が結婚したくないわけをはっきりと述べてみたとして。相手は表向きはうなずいてくれるかもしれないけれど、きっと心の中では、ああこれは結婚しないのではなくできない人の典型的な強がりの言い訳だなあ、と思っているに違いないのである。被害妄想ではないかと言われるかもしれないけれど、実際に自分自身が、他の結婚していない人の話を聞いていて、どうしても言い訳にしか聞こえてこないから、きっと確かだと思う。

さて、それがいやだからといって、まあ相手がいなくてねえ、相手がいればねえ、等というようなことを言ったら、それこそ大変だ。相手がいなくてということで哀れみの目を向けられるだけならともかく、おせっかいな人なら、誰か紹介しようか、などと言ってくる。さらに相手本人が誰か紹介するというのならともかく、その場にいる他の友人にまで、誰か紹介してあげてよ、なんて話が広まっていく場合もある。まあそういう状態ではたいいてい人は本当に紹介する気などまったくなく、だから面倒が降りかかるというようなことは今のところないのだけれど、そういう、自分に対する哀れみの感情だけが広まってしまうのもどうかと思う。ついでにいえば、相手がいればねえ、等というようなことを親戚や家族の前で言ってしまうと、それこそお見合いをしるだの写真を持ってくるだの言われてしまうから大変だ。

また別の方法としては、一般論を持ち出す方法がある。一番利用しやすいのは、「結婚は人生の墓場だ」という言葉である。この言葉には私も何度かお世話になってきた。また、世の中の夫婦の四分の一は離婚するらしい、という数値も利用できる。つまり離婚する可能性の高いものにわざわざ長い時間とお金をかけるのも無駄だ、という話である。ただし、これは最初にあげた例と同じで、ただの言い訳にしか見てももらえない可能性が高い。最初の例よりも良いのは、短い言葉ですむからちょっと楽だという程度のものである。

ついでにもう一つ、僕なんかと結婚しても、相手が不幸になるだけだよ（だから結婚しないのさ）、などと格好を付けてみたところで、やはりただの言い訳にしか聞いてもらえないだろう。

そこでこういう時は攻勢に出て、でも結婚生活ってそんなにいいものなの？などと反撃するのがよい、と最初は思っていた。たいいてい人は結婚生活に何らかの不満を抱えているものだから、相手の方が返答に窮するだろう。そして大抵は、まあ不満はあるけれどねえ、だとか、女は結

婚すると変わるものだ、とかそういう話をしてくるから、そこで、そういう話を聞くとやはり結婚する気にはなれないなあ、等と答えるのだ。そうすれば言い訳っぽくもそれほどならないし、強がりにもあまり見えないし、なにより、結婚生活の不満を言ったのが相手の方だから、それ以上のことが言えなくなってくるのである。

ところが、そううまくはいかないものであることも分かった。こういうパターンを何度か利用していると、相手も学習するらしく、一筋縄ではいなくなる。まず、結婚生活に対する不満を言わなくなるのだ。わざわざこちらがシチュエーションを説明して、こういう時は面倒ではないか、とか、ああいうときは一人のほうがいいのではないか、などと聞くのだけれど、敵もさるもので、そういう時はこうだからねえだとか、ああいうときはああだからねえだとか、うまくかわしてきて付け込む隙がないのだ。そして先日などは、付け込む隙がなくなり窮した私に対して、目の前の友人はさらに追い討ちをかけるように、そういうことから逃げているだけではないのか、などというようなことを言ってきたのであった。

正直、自分としては逃げているとか逃げていないとかそういうこと以前の問題なのだ。けれど客観的に自分のことを見直せば、そういうふうに見えないこともない。というよりも、客観的に見れば、そうにしか見えないような気もするのだ。

だから、こういう生き方は、やはり微妙なものなのだ。けれど、それはそれで仕方ないのかもしれないとも思う、というよりも、思うしかないのかもしれない。そう思いながら、私は今日も、一日を過ごすのである。